

お客様のこだわりに、プレミアム品質で応える。

世界にひとつを極める Quality Policy

プロローグ



1949年、春原木材の家づくりは
松代・豊栄の森の中からはじまりました・・・

流行よりも長期的な視点で
普遍的な価値を追求してきた

春原木材の哲学。

それを一邸に注ぎこむのが
春原木材のプレミアムクオリティ、
「匠 MEISTER」です。



匠 MEISTER

Quality
Policy



私たちには妥協なきものづくりへの姿勢があります

春原木材は木のプロフェッショナルとして、「永く安心して安全に暮らし続けることができる」という想いを胸に健康&自然住宅をつくり続けてきました。

Lifeterior (ライフテリア) とは・・・春原木材が考える高齢化社会対応住宅。

お客様の年齢に関わらず、高齢化を見据えた生涯設計を標準としています。

「お客様のこだわりに、プレミアム品質で応える。世界にひとつを極める Quality Policy」いくつもの本物が並び立ち、豊かに共鳴する空間。そこには、時を超えても色褪せない美しさがある。歴史と技術と誇りを胸に、この世に一つしかない邸宅づくりを極めていく。それが「匠 MEISTER」です。



「木の家のしくみ(骨組み)」見学会 10月10日(土)・11日(日)

2会場同時開催・午前10時～午後5時

春原木材はなぜ家の骨組みを見ていただきたいのでしょうか？

春原木材はなぜ「木の家のしくみ(骨組み)」見学会を行っているのか、ご存知ですか？

見た目の良さを優先して、建築中の見学会は行わない建設会社が多いかも知れません。

でも本当に大切なのは、家がどんなしくみでできているかということです。

春原木材は、そこに住まう人が、いつまでも安心して、安全に住み続けることができる家づくりを、何よりも大切に考えています。

「地震による倒壊」「湿気による腐食」「シロアリの被害」は、建物の寿命を縮めてしまいます。長持ちする家づくりのために、最も重要な骨組みを妥協してほしくないのです。

まず家のしくみ、そしてなぜそのようになっているかを、完成後には見えなくなってしまう部分を、実際の施工途中の建物をご覧いただきながら、一緒に勉強していただける見学会です。

耐震等級3×耐久性＝ 安心が持続する家

春原木材ではすべての建物を耐震等級3相当で施工しています。耐震等級3は消防署・警察署などの防災拠点となる建物に相当します。

そのため、ご予算やご要望に関係なく、基本構造に関わるサイズや材質を下げることはいたしません。

古来より使われているヒノキ・アカマツなどの耐久性の高い樹種を適材適所に用いています。

地震に強く、耐久性がある「本物の木の家」に安心してお住いいただき、末永く見守りたいという、春原木材の家づくりに対するこだわりなのです。

耐久性を高めるには「呼吸する家」

耐震性が高くても呼吸しない家は腐ります。

長持ちする家づくりに最も大切なことは見えない部分が呼吸すること。

高気密・高断熱化が進むにつれ、呼吸できない新建材の多用により、結露やカビの発生しやすい環境となり、建物寿命が短くなってしまいました。

築100年の木造住宅が、現存しているのはなぜでしょうか？ それは自然素材を適確に使い、建物を呼吸させる技術があったからです。

熊本地震で倒壊した建物の原因について、建築基準法を満たした建物でも木材が呼吸できず、湿気や結露で、カビや腐食が発生したことが要因のひとつでした。

家の見えなくなる部分(野地板・外壁・室内壁・壁下地・断熱材・床下)が呼吸できることが、何よりも重要であると言えます。

耐震性だけでなく、長期にわたる耐久性を追求し、春原木材は呼吸する家づくりにこだわり続けます。

●新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、 会場内で密接しないために入室制限のお願いをすることがあります。

※マスク着用でのご来場、手指のアルコール消毒、手袋の着用をお願いなど、詳しくはお問い合わせください。



お客様のための厳しい設計基準

春原木材では厳格な社内設計基準を設け、建築基準法で求められる耐力壁(地震の横揺れによる被害を防ぐために有効な壁)に対して、耐震上、横揺れに有効な「すじかい」を125～130%増量しております。

また家のバランスの数値として柱直下率60%以上、耐力壁直下率も60%以上、偏心率は20%以下という独自の基準で設計しております。

丸太梁を使い続ける理由

信州で育った地元産アカマツの丸太梁。厳しい自然環境の中、風雪に耐えてきたアカマツは、独特のヤニが保護効果を発揮して強度に加え、粘り強さがあります。

丸太梁は自然な曲がりやを、そのままアーチ状として利用することで、屋根の重量を支えながら、堅牢でたわみづらく家全体のバランスを保っています。人間に例えると背骨のような役割をしています。

春原木材は、今では希少なアカマツを手間をかけて、1本1本のクセを読み、加工する伝統構法の技を継承し、木の家の原風景を伝えながら、長持ちする家を未来へとつくり続けていきます。



※施工途中のセルロースファイバー

「呼吸する断熱材」の秘密

セルロースファイバーが持つ調湿性に加え、心地よさの秘密は「容積比熱」にあります。

「夏、家に帰って来た時にムツとしていない」

「2階の暑さが明らかに他の断熱材と違う」

「空気がさわやか」など、アンケート結果でも体感による評価が高いです。

セルロースファイバーは、外気温が室内の温度に影響を及ぼしにくく、同程度の熱伝導率を持つ他の断熱材の住宅にはない快適性が体感できます。

セルロースファイバーは、容積比熱がグラスウール16Kの約7.7倍も優れているため、その蓄熱性の高さから室内まで熱が入りにくくなるのです。

夏期の2階天井面では、同じ断熱性能でもグラスウールに比べてセルロースファイバーの方が2℃程度低く、温度上昇が緩やかです。

セルロースファイバーは施工密度が高く、断熱材使用量が多いため、施工に時間がかかりますが、容積比熱という考え方では逆に他の断熱材と比較して、夏の快適性には優位に働くことが明らかになりました。

セルロースファイバーとグラスウール16Kの性能比較

	熱伝導率 (W/mK)	比熱 (kJ/kgK)	密度 (kg/m ³)	容積比熱 (kJ/m ³ K)
セルロースファイバー	0.040	1.88	55	103.40
グラスウール16K	0.038	0.84	16	13.44
比較	1.05倍	2.24倍	3.44倍	7.69倍

光熱費の大幅削減！

「呼吸する断熱材」は、快適な湿度を自然にコントロールしてくれるのです。夏の蒸し暑い日は、カラリとした涼しさ。冬の締め切った室内は清々しい暖かさが実現できます。エアコンなどにたよらず、健康的で人にやさしい断熱材です。さらに光熱費を節約でき、家計にもやさしい断熱材を体感して見ませんか？

新築ご成約で床下調湿材プレゼント

床下は湿度が高く、ダニ・シロアリが発生しやすい環境です。近年の温暖化で夏場の「逆転結露」が問題視されています。室内を冷し、床下に熱風が入ると温度差で結露が発生します。これが原因で木材の腐食につながります。木炭は呼吸を繰り返し、一定以上の湿度になると吸湿し、乾燥すると吐き出す作用があります。床下を常に最適な湿度に保ち、住まいを守ってくれます。

※詳細は、見学会場にてお問合せください。

webshop sunomoku

— 春原木材のWebショップがOPEN!! —
木の心地よさをお届けする、オリジナル商品のWebショップがオープンしました。お手頃なキーホルダー・まな板・花台などからオーダーメイドの「材木屋」がつくる手づくり家具まで取り揃えました。
<https://sunomoku.thebase.in/>
QRコードからアクセス→



TEL.026-278-4111

ホームページ <https://sunohara-kinoie.jp>

〒381-1222 長野市松代町豊栄6414-5